

## 2018年(平成30年)4月オホーツク管内倒産集計

30年5月8日

**株式会社 東亜リサーチ**

北見市常盤町3丁目16番42号

Tel (0157) 23-6288

Fax (0157) 24-1033

### 一転して最少発生 累計件数、金額とも過去2番目の低水準

#### 発生件数1件、負債総額2,000万円

■前月比件数	4件減少(平成30年3月	5件)
負債総額	5億4,600万円減少( "	5億6,600万円)
<hr/>		
■前年同月比件数	同数(平成29年4月	1件)
負債総額	9,000万円減少( "	1億1,000万円)

#### 平成30年4月の発生状況

平成30年4月のオホーツク管内における倒産整理企業(負債総額1,000万円以上・内整理を含む)は、発生件数が1件、負債総額で2,000万円だった。

これは前月と比較すると件数で4件、負債総額では5億4,600万円のそれぞれ減少。前年同月比では件数は同数だったが、負債総額では9,000万円の減少となった。

当月の1件は(有)エバーフーズ(北見市・農産物販売・負債総額2,000万円)で、代表者の死亡によって事業継続が困難となったもの。これで2か月連続の発生となったが、先月の5件発生から一転して最少発生に止まった。

過去5年間の4月の発生状況を見てみると25年5件、26年2件、27年2件、28年1件、29年1件で平均件数は2.2件、同負債総額で1億7,596万円となっており、今年は件数、負債総額ともに平均値を下回る結果となった。

## 過去5年間と今年1～4月の発生推移

今年1～4月の発生累計は件数が6件、負債総額で5億8,600万円となった。これは前年同期間と比べると件数で5件の減少だが、負債総額では8,500万円の増加となった。過去5年間の発生推移は【下・表】の通りで、平均件数は7.6件、同負債総額で11億8,316万円。今年は何件数、負債総額ともに平均値内に止まり、過去5年間では件数、負債総額ともに2番目に少ない数値となっている。地区別発生では北見市4件、紋別市1件、清里町1件。業種別では卸・小売4件、製造と車輛が各1件。主要因別では販売(売上)不振が5件、代表死亡1件。表面化別では法的処置3件、弁護士一任2件、2回目不渡りが1件となっている。

## 過去5年間と今年1～4月の件数・負債額

年 別	件 数	負 債 額
25年	10件	14億4,880万円
26年	5件	8億4,400万円
27年	6件	10億5,600万円
28年	6件	20億6,600万円
29年	11件	5億100万円
30年	6件	5億8,600万円

## 1～4月主要因別倒産件数

主要因	29年件数	30年件数
販売不振	9	5
回収難	0	0
過当競争	0	0
連鎖	0	0
計画失敗	0	0
放漫経営	0	0
旧債重荷	0	0
代表死亡	2	1
その他	0	0

## 30年月別倒産件数・負債額

年月別	件数	負 債 額
1月	0件	0円
2月	0件	0円
3月	5件	5億6,600万円
4月	1件	2,000万円
5月		
6月		
7月		
8月		
9月		
10月		
11月		
12月		
合 計	6	5億8,600万円
29年合計	11	5億100万円
前年対比	▲5	8,500万円

## 1～4月地区別倒産件数

地区	29年件数	30年件数
北見市	6	4
網走市	1	0
紋別市	1	1
常呂郡	0	0
網走郡	0	0
斜里郡	2	1
紋別郡	1	0

1～4月業種別倒産件数

業種	29年件数	30年件数
農・林・漁業	0	0
建設	2	0
製造	1	1
卸、小売	1	4
サービス	1	0
飲食・ホテル	3	0
車輛	1	1
運輸	2	0
燃料	0	0
その他	0	0

1～4月企業形態別倒産件数

企業形態	29年件数	30年件数
株式会社	4	3
有限会社	3	1
特殊法人	0	0
個人	4	2

1～4月倒産表面化要因別件数

企業形態	29年件数	30年件数
法的処置	9	3
2回目不渡り	1	1
弁護士一任	1	2

### 今後の見通しと問題点

これまで緩やかながら景況感は改善されてきたのだが、先行きを見てみると不透明感が色濃くなっており、着業期入りの期待感は感じられない。人手不足感がバブル期を超えたとの調査結果があるなど人手不足問題は深刻さを増し、人材確保のための人件費高騰や受注機会の損失などによって中小企業の経営により重くのしかかってきている。

現状金融機関の融資姿勢に変化がみられないことから、倒産件数が一気に急増する懸念はないとみられるものの、人手不足は厳しさを増していることから、体質改善の進まない中小企業やコスト増を価格に転嫁できない営業基盤の弱い小規模零細企業を中心に倒産件数が緩やかに増加する可能性も否定できず、今後の動向が注目される。